

市長と語ろう！タウンミーティング 第4回 議事録

開催日時 平成23年7月20日（水） 午後7時～8時40分

開催場所 笠間市役所 本所 大会議室

参加者 市民 21人

《フリートーク（意見交換）》

1. 農道の付け替えによるセットバックについて
2. 原子力安全協定への取り組みについて
3. 排水路の異臭と市道の草刈りについて
4. かさま健康ダイヤル24について
5. 宍戸駅付近の踏切に歩道を設置してほしい
6. 補助金の廃止について
7. 鴻巣地内の雨水排水について
8. 放射能に関する要望書について
9. 電車の速度を落として欲しい
10. 松山団地内の公園管理について
11. 防災無線が聞き取りにくい
12. ボランティアと市役所各課との連絡調整について

《内容》

1. 農道の付け替えによるセットバックについて

【意見等】

国道の拡幅工事に伴い近所の方が宅地を購入したが、その際に農道の付け替えを行い、私の家の隣に3メートルの農道ができた。すると、「新しくできた農道は3メートルなので、私がお家を新築する時は50センチのセットバックが必要だ」とその近所の方から言われた。こういう時は、最初から4メートルの道路を造るのが当たり前だと後になって聞いたが、市役所の担当から、私には一つも話がない。どういうことか。

【回答】

ご指摘の農道については、4メートルで行うという報告を受けています。当然、新しくつけかえる農道の幅が3メートルというのは、農道に接する土地の方にご迷惑をおかけすることになりますので、セットバックの義務が発生しないように4メートルでつけかえるべきです。職員の説明が足りなかった点があったようですので、それについてはお詫びしたいと思います。

2. 原子力安全協定への取り組みについて

【意見等】

今回の震災では、東海村の原発で問題がおきなかったが、現在、笠間市は原子力安全協定を東海村の原発と結んでいるのか。

【回答】

今の時点では、協定は結んでいません。今回の災害が発生するまでは、原子力の事故をまったく想定していませんでした。JCOの事故の前に、原子力安全協定を結んでいたのは、茨城県と東海村だけでした。事故後、隣接市町村とは安全協定を結んでいます。昨日、水戸市を中心に県央の9人の市町村長の会議の中で、東海村長から今後の原子力対策は、所在地の東海村だけで判断するのではなく、近隣の市町村の意見を聞くべきだという提案を受けました。今後は、東海村を含むこの9市町村が連名で、茨城県と安全協定を結ぶように要望を申し入れようという状況になっています。事業者等ときちんと安全協定を結び、災害が発生したときに情報がスピーディに伝達できるような体制は整えておきたいと思っています。

3. 排水路の異臭と市道の草刈りについて

【意見等】

私たちの営農組合の水利は、下の方に池を作って、排水路なども合わせて循環して田んぼにまわしています。ところが、排水路に一般の下水が流れ込み、非常に悪臭がする。

また、農地の中に市道があり、その草刈りは営農組合で行っている。市では、刈払いの歯ぐらいは提供してもいいのではないか。

【回答】

排水路の異臭がし尿ということであれば問題なので、すぐに担当課に調査に行かせます。

田んぼの脇の市道や農道は、いろいろな地区にあると思いますが、現実的に市がすべての道路を管理するというのは難しいところがあり、特に田んぼをつくっている皆さん方には、田んぼ脇の草刈りをさせていただいているのが現状です。それは大変ありがたく、今後ともお願いしたいところでございます。市でも、お願いしてばかりというのも心苦しいので、道路の里親制度というのを行っており、若干の支援をしています。500メートル以上の市道の草刈りを年に3回以上やっていただければ、その団体に対して年間3万円の報奨費をお支払いしています。これまで20近い団体が登録されていますので、管理課に申請してください。

4. かさま健康ダイヤル24について

【意見等】

かさま健康ダイヤル24で薬を逆に飲んでしまってどうしたらよいか聞いたところ、「水を飲みなさい」と言われた。そのことをかかりつけ医に話したら、「それはおかしい」というようなことを言われた。かさま健康ダイヤル24はどんな人がやっているのか。

【回答】

かさま健康ダイヤル24は、市が直接専門家にお願いしているわけではなく、会社に委託しております。その会社では、それぞれの専門分野の医師、薬剤師、保育士、介護士を揃えていて、相談があったときには、その専門分野の人につないでお話をするというシステムです。電話でのサービスなので、病院に行って医師と対面で相談するよりは、症状や意思の伝達がうまくいかないことがあるのは事実です。

記録があるかどうかはわかりませんが、このご意見については委託業者に伝えます。良い評価をいただくこともありますので、ぜひご利用ください。

5. 宍戸駅付近の踏切に歩道を設置してほしい

【意見等】

宍戸駅の石岡街道踏切は、大田町地区と平町地区を結ぶ幹線道路にあり、朝夕の車の行き来が多い上に、小中学生の通学路なので歩道の設置をお願いしたい。

【回答】

宍戸の踏切の件については、国道355号と市道の両方の認定になっておりますので、県と市とで協議をしております。これまでの協議の中で、踏切の方は市でお願いしますという県からの説明がありました。しかし、1億5千万ほど踏切を拡幅するのにかかるということです。JRでは、県でも市でもお金を出していただければ、対応するという話は伺っています。県との調整が必要ですので、早急に話をつめていきたいと思っています。

踏切の歩道の整備は重要ですが、どうしてもお金がかかります。市内でも、そのような踏切は何か所もありまして、ある一定の交通量があるのは、宍戸や岩間駅の南側の踏切、笠間では下市毛の踏切などがあります。今のところ手付かずの状態ですが、課題として受け止めています。

6. 補助金の廃止について

【意見等1】

環境ボランティアの一員として活動しているが、来年度は、補助金を一方的に切られるようだ。明快な説明も不足しており、会員からは不満の声が出ている。詳しく説明がほしいのと、できれ

ば、再考して補助金を復活して欲しい。

市民ボランティアのやる気を起こさせるようにしてほしいと思う。

【回答1】

補助金は、平成19年に外部の委員さんで検討委員会を組織し、見直しを行いました。補助金の見直しそのものの目的が達成されていないということで、平成22年度に弁護士や税理士の方々に入っていただいてメンバーをかえて、補助金の検討委員会を設置して検討していただきました。そこで、補助金を出している団体の事業を精査して、廃止、縮小、継続と3つに分類をさせていただきました。平成23年度から報告に基づき実施する予定ですが、事前に各団体にも説明した方が良いでしょうということで、代表の方々にはすでにお話しているはずですが、ですから、何の通知もなしに打ち切ったというわけではないことをご理解ください。

これまで、補助金の支出についてきちんとした根拠はありませんでした。しかし、税金を使う以上、きちんとした根拠に基づき、補助金を出すことが必要です。補助金は縮小ばかりではありません。公共性の高いものについては拡大もあります。今回の見直しで不服がある場合は、担当課に話をしてくださいという説明をしています。担当課では、不服があった案件については、また協議をするということで指示しています。

市民の皆さんの自主的な活動は応援していくべきだろうと思っていますが、ずっと永久に応援するというよりも自立する手助けの応援の仕方ということで、市民活動助成費というものを2、3年前につくり、さらに去年から充実させて3年間最高60万円までの事業補助を制度としてつくっています。しかし、この制度を利用されている団体が少ないです。

【意見等2】

一方的に決めるのではなく、建設的な意見の交換の場を設けて欲しい。

【回答2】

市民の皆さんが活動してくださっていることを評価していないわけではありません。行政がすべて行うことはできませんので、団体の皆さんが自主活動の中で、いろいろな役割を果たして下さっている公共性の高い事業があることは認識しております。補助金が出ないからといって皆さんの活動を否定しているわけではありませんので、それはご理解ください。

笠間市内において環境保全活動を行っている団体がいろいろある中、市ではこれらの団体にどのように支援をしていくのかということを含めて全体的に検討すべきではないかと担当課である環境保全課に投げかけているところです。組織の改編など、新たな活動を展開される場合には、市民活動助成金を出していこうという内容の答申です。担当課とよく意見交換をしていただきたいと思います。

7. 鴻巣地内の雨水排水について

【意見等】

鴻巣の踏切を北にいくと県道に出るその手前に精米所があるが、その反対側は、雨が降ると側溝がないため、市道から畑へどんどん雨水が流れ込んでしまう。その様子を写真に撮り、市役所に持っていったが、まだ返事がない。今どうなっているのか。

【回答】

現場の確認をして、対応を考えます。

8. 放射能に関する要望書について

【意見等】

放射能が心配で父母の有志で要望書を出し、回答をいただいたが、国は8月に暫定規制値を見直すと言っているのだから、もう一度、要望書を出そうと思っている。直接、市長とお話をする時間をとってもらえるのか。

【回答】

わかりました。秘書課で日程の調整をしてください。

9. 電車の速度を落として欲しい

【意見等】

立川病院の後ろに住んでいるが、震災の後、電車が通るとまた地震が来たと思うほどゆれるので、J R 東日本に少しスピードを落としてもらえないかと要望を出した。すぐ J R 水戸の方に来てもらったが、揺れるところは見てもらえなかった。市で J R 東日本に働きかけてもらえないか。

【回答】

実態がよくわかりませんので、実際に確認し、そういう意見があったということは、J R に伝えておきたいと思います。

10. 松山団地内の公園管理について

【意見等】

松山団地は、県の住宅供給公社が開発されたところだが、住宅供給公社が破産をしてから、市で所有する緑地と自治会で管理するものとに分かれている。団地内には5つの公園があり、その中の一つに夕焼け公園が西側にあるが、その公園の照明灯が腐食して倒れている。業者の方に見積もりをお願いしたら約12万円だった。そのことを市に話したら、その照明灯は自治会の管理下なのでお願いしたいという回答だった。住宅供給公社で作ったものを全部自治会が整備・管理してはいけないので、市で対応して欲しい。

【回答】

ご質問の公園は、県の住宅供給公社が作りしました。開発行為によってつくられた公園については、地元の自治会が管理運営をし、底地は市で管理するという約束でこれまできたわけです。しかし、大変な費用がかかるものや大きな木を切るような場合は、市の方でもやるべきではないかという協議があり、市でも対応するように進めております。

照明灯についても、自治会と協議をして対応を決めていきたいと思います。

11. 防災無線が聞き取りにくい

【意見等】

矢野下の防災無線は、こだまして聞き取りにくい。改善できないのか。

【回答】

防災無線に関して、聞きづらいというご意見はたくさんいただきました。スピーカーの向きや地形、天候によって聞き取りやすさが違ってきます。防災無線は、長く言葉を流すほど聞き取りにくくなってしまいます。例えば「危険です」という短い言葉であつたら、伝わりやすいと思いますが、長くなると何を言っているのかわからなくなってしまふという面がありました。岩間地区は、スピーカーが少なく、戸別のラジオ受信機を各戸に配布しておりまして、笠間地区は、戸別のラジオ受信機は、谷間のように本当に聞こえないところにだけ配布していました。今後、防災無線もデジタル化が必要なので、どうするかという判断をしなくてはなりません。防災無線で、災害時にすべての情報を伝達するというのは非常に難しいと思います。これは、どこの自治体でも課題となっております。複数の手段で災害時の情報は伝えていった方がよいということで、危機管理室でいろいろな状況を調べて検討しているところです。FM放送、戸別受信機等いろいろな意見がありますが、それぞれに長所短所があります。今後の情報伝達のあり方は検討していきます。

現在、情報発信の一つとして、かさめ〜るがあります。登録していただいた方には、いろいろな情報を流していきたいと思っていますので、ぜひ、皆さんも登録いただきたいと思っています。

震災時、防災無線については、いろいろとご迷惑をおかけしました。

12. ボランティアと市役所各課との連絡調整について

【意見等】

支援ボランティアをしています。今回の震災では、各課との連絡調整がうまくいっていません。ブロック塀を搬入するのにも、いちいち市の許可をもらわなくてはならないという状況が

あった。今後、ボランティア活動していく中で、各課との連絡調整が十分にできるようにしてほしい。

【回答】

初めての大きな震災ということもあり、制度をつくっていてもうまく機能しないということや、連絡体制がうまくいかなかったことは事実であると思います。災害時には、行政だけで対応するには限界がありますので、ボランティアの皆さんにはいろいろな角度から支援していただくということが必要だと思います。ご指摘の点はしっかり対応していきたいと思います。平時にはルール違反はあってはならないと思いますが、非常時には多少ルールを破っても、多くの皆さんが救われるということがあればよいと思っています。柔軟性をもつことも必要だと認識しています。